

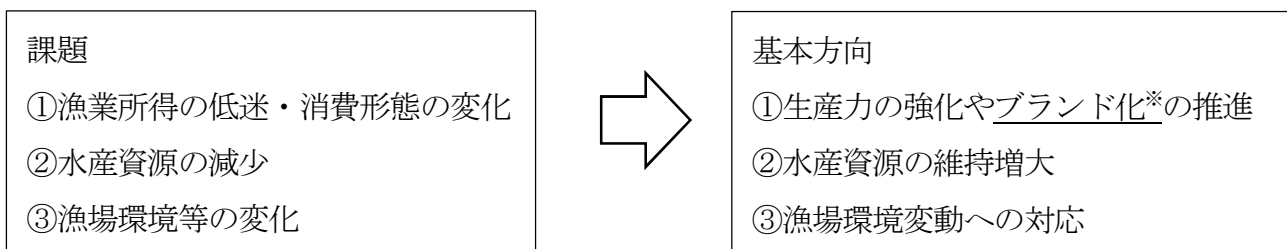
水産総合研究センター機能強化に向けた基本構想について

1 基本構想策定の必要性

水産業は、漁業所得の低迷や水産資源の減少などの課題に加え、海水温の上昇などの環境変化に直面しています。これらの課題や変化に的確に対応し、力強い水産業を実現するためには、水産業の生産現場を技術面から支え、地域に根差した研究を行っている水産総合研究センターの機能を強化する必要があります。このため、県では「水産総合研究センター機能強化に向けた基本構想」を策定し、収益力の高い水産業や、水産物の付加価値向上につながる研究、水産資源の維持増大に関する研究、漁場環境変動に対応するための研究などを強化することとしています。

また、この構想案では、効率的・戦略的な試験研究体制の構築に向けて、マネジメント機能の強化により、分野横断的なプロジェクト研究の積極的な推進や実用的な技術の開発に取り組むとともに、研究施設の再編整備等を図ることとしております。

2 現状の課題と研究の基本方向



※本県に水揚げされる水産物の付加価値を高め、消費者にその魅力を広く知ってもらうこと

3 具体的な取組

- ①生産力の強化やブランド化を推進する技術の開発
- ②水産資源の維持増大に関する技術の開発
- ③漁場環境変動に対応する技術の開発
- ④効率的・戦略的な試験研究体制の構築

→ ・マネジメント機能の強化によるプロジェクト研究の積極的な推進
 ・研究施設の再編整備[※]による効率的な研究体制の構築

※効率的な試験研究を行うために必要な機能を業務ごとに精査し、種苗生産業務の集約化などの検討も行いながら、今後、具体的な再編整備計画を策定してまいります。

4 策定のスケジュール

- ・平成30年8月に基本構想案を公表し、水産団体や関係市町村への意見照会、パブリックコメントを実施し、幅広く意見を聴取しました。
- ・年内には、基本構想を策定いたします。